

式 辞

ただ今、卒業証書、修了証書をお渡しした卒業生、修了生の皆さん、本日はまことにめでたうございます。本校教職員を代表し、心からお祝いを申し上げます。専攻科修了生の皆さんは、大学改革支援・学位授与機構の審査に合格し、学士の学位を取得されました。重ねてお祝いを申し上げます。そして、学生諸君を長い間支援してこられた御家族、友人、その他の皆様に深い敬意を表し、今日の喜びを、共に分かち合いたいと思います。

また、本日卒業生、修了生を祝福するために、ご多忙中にもかかわらずたくさんの来賓の方々にご列席いただいております。ここで皆様に厚く御礼申し上げます。

本日卒業を迎えた273名の本科卒業生を新たに加えて、産業技術高等専門学校本科卒業生は累計で2245名になりました。専攻科の修了生も毎年その数を増やして、315名を数えるまでになりました。そして前身校の2校の卒業生を合わせると、都立の高等専門学校の卒業生は優に2万人を超える数になります。これらの卒業生は日本国内にとどまらず、世界の各地で活躍しています。その数は50年以上の歴史を引き継ぎ、これから着々とその数が増えていくことと信じています。

さて、ここで現在オーストラリアで活躍している、みなさんの先輩のお話をしようと思います。この卒業生は、今から25年ほど前に前身校を卒業しましたが、在学中から海外に興味を持ち、1年間海外へ行きました。卒業後は、工学全般の特許事務にかかわる仕事につきたいと考え、独学で勉強するとともに、実際に特許事務所に就職し実務経験を積み上げてゆきました。弁理士資格は、工学の世界では非常に取得難易度の高い資格として知られており、多くの企業にとっても必要な存在です。彼はその資格試験に合格し、晴れて弁理士となりました。しかし彼の挑戦はさらに続きます。その後、弁理士事務所で国際的な特許戦略に関わるようになり、その舞台をオーストラリアに選びました。今、彼のチャレンジは続いています。その一つがオーストラリアの Patent Attorney、日本語に訳すと特許弁護士資格を手に入れることです。きっと彼ならやり遂げると思っています。

実は高等専門学校の卒業生が、今世界の各地で活躍しています。ある人はアメリカで、又ある人はアフリカで、あるいはアジアの諸国で、たくさんの人たちが汗を流して働いています。こうした卒業生が世界のどの国においてもエンジニ

アとして活躍できる環境を作っていくことは、今後の高専の課題の一つではないかと考えます。今日高専を卒業していく皆さんの今後の活躍は、世界の産業界での高等専門学校の位置づけを高めていってけると期待しています。

世界は今、第四次産業革命とも呼ばれる大きな転換期を迎えています。この大きな流れは、一方でいろいろな試練を我々に課しています。

たとえば、東南アジアの地方で起こった洪水は現地の工場の機能を止めると同時に、それに連なるさまざまな供給ラインに影響を与え、最終的に世界の人々の生活に被害を及ぼすことになりました。又、世界の各地で頻繁に起こる対立は世界のエネルギー供給に影響を及ぼし、新しい技術に求められる天然資源の生産に滞りを生じています。技術者がこうした状況に対応していくためには、いろいろな専門分野の人々と協力していくことが大切です。これからの世界で活躍する技術者は、専門家であるとともに、ものごとを大局的に見渡せる視野の広さを持っていなければなりません。

卒業式を英語で言えば一般的には”Graduation”ですが、”Commencement”ともいいます。前者が今までの実績や到達度に重きを置くのに対して、後者は「始まり」とかスタートという意味の強い言葉です。皆さんは自分の卒業はどちらだと思いませんか？

今日卒業される皆さんは、今後いろいろな分野に進んでいくことになると思います。自信を持って、そして着実に未来を切り開いていってください。

「運命の女神は挑戦する者たちに対して扉を開きます。自分を信じて未来に向かって挑戦していってください。」

本日は誠にありがとうございます。

平成 30 年 3 月 20 日
東京都立産業技術高等専門学校

校長 田原正夫